

学生生活の研究 : 2. 現在の社会生活

山田, 裕章
九州大学健康科学センター

冷川, 昭子
九州大学健康科学センター

峰松, 修
九州大学健康科学センター

<https://doi.org/10.15017/371>

出版情報 : 健康科学. 3, pp.141-147, 1981-03-30. 九州大学健康科学センター
バージョン :
権利関係 :

学 生 生 活 の 研 究

2. 現 在 の 社 会 生 活

山 田 裕 章
冷 川 昭 子
峰 松 修

The Investigation of College Life :

(2) Social activity in Graduates

Hiroaki Yamada, M. D.

Akiko Hiyakawa

Osamu Minematsu

はじめに

昭和54年におこなった大学生活に関する満足度の調査に回答した329名について、現在の社会生活について分析をおこなった。アンケートに回答した者が、現在どのような職業につき、現在の仕事をどのように感じているかをみたものである。これらの者は、その80%が大学生活を有意義だったと評価した。その理由は(1)大学生活での生活態度や人生観により影響があった。(2)学業、(3)クラブ活動などが有意義であった。このように、大学生活を肯定的にとらえている者の社会的背景はどのようなものであろうか。

対 象

対象とした母集団は、昭和42年から昭和51年までの10年間に九州大学を卒業した16,865名の卒業生である。この母集団から無作為抽出した1,006名に対してアンケート調査をおこない、329通が回収された。アンケート結果のうち、大学生活に関する部分はすでに報告した。今回は、現在の生活に関する項目について報告する。

現在の職業生活

アンケートに回答した326名の産業別分類および職

表1 産業別分類

	理系 (%)	文系 (%)	計 (%)
1. 製造業	112 (50.7)	29 (27.6)	141 (43.3)
2. 公務	46 (20.8)	21 (20.0)	67 (20.6)
3. 卸・小売業 金融・保険 不動産業	1 (0.5)	29 (27.6)	30 (9.2)
4. サービス業	16 (7.2)	7 (6.7)	23 (7.1)
5. 建設業	17 (7.7)	3 (2.9)	20 (6.1)
6. 運輸・通信 電気・ガス 水道・熱 供給業	4 (1.8)	4 (3.8)	8 (2.5)
7. 鉱業	6 (2.7)	0	6 (1.8)
8. 農林業	1 (0.5)	0	1 (0.3)
9. その他	10 (4.5)	9 (8.6)	19 (5.8)
10. 分類不能	1 (0.5)	0	1 (0.3)
11. 不明	7 (3.2)	3 (2.9)	10 (3.1)
計	221 (100.0)	105 (100.0)	326 (100.0)

業別分類が表1, 表2に示されている。産業別にみると、製造業が最も多く(141名)、全体の43.3%を占める。ことに理系学部卒業生の50.7%は製造業である。つぎに多いのは公務員である。理系, 文系の差なく,

表2 職業別分類

	理系 (%)	文系 (%)	計 (%)
1. 専門的・技術的職業	134 (60.6)	14 (13.3)	148 (45.4)
2. 事務従事者	0	36 (34.3)	36 (11.0)
3. 管理的職業	4 (1.8)	8 (7.6)	12 (3.7)
4. 技能工・生産的職業	8 (3.6)	1 (1.0)	9 (2.8)
5. 販売従事者	0	3 (2.9)	3 (0.9)
6. 保安・サービスの職業	2 (0.9)	1 (1.0)	3 (0.9)
7. 農林・漁業従事者	1 (0.5)	0	1 (0.3)
8. 運輸・通信従事者	0	1 (1.0)	1 (0.3)
9. 大学院学生	4 (1.8)	2 (1.9)	6 (1.8)
10. 主婦	7 (3.2)	7 (6.7)	14 (4.3)
11. 不明	61 (27.6)	32 (30.5)	93 (28.5)
計	221 (100.0)	105 (100.0)	326 (100.0)

全体の20.6%を占めている。第3位は卸・小売業, 金融・保険・不動産業で, 全体の9.2%であるが, その殆どは文系卒業生である。第4位のサービス業は, 理系・文系の区別はなく7.1%である。

表3 転職経験

1. 転職しなかった		279
2. 転職1回		2
42年—44年卒	1	
49年—51年卒	1	
3. 転職2回		32
42年—44年卒	16	
45年—48年卒	10	
49年—51年卒	6	
4. 転職3回		3
42年—44年卒	1	
45年—48年卒	2	
計		316

職業別にみると, 全体の半数弱(45.4%)は専門的・技術的職業についており, 理系卒業生の60.6%を占める。第2位は事務従事者の11.0%であるが, これは全員文系卒業生である。主婦14名中専業主婦は8名で, 他の6名は有職であった。

転職経験についてしらべたものが表3に示されている。転職した者は37名(11.7%)であり, 転職経験が2回の者が最も多い。転職経験者を卒業年度別にみると, 表4に示されるように昭和42年から昭和44年までの期間の卒業生が最も多く, 97名中18名(18.6%)は

表4 卒業年度と転職

卒業年度	転職なし (%)	転職あり (%)	計
S.42—S.44	79(81.4)	18 (18.6)	97
S.45—S.48	119(90.8)	12 (9.2)	131
S.49—S.51	81(92.0)	7 (8.0)	88

転職していた。これはつぎのグループすなわち昭和45年から昭和48年までの卒業生の転職率9.2%の約2倍にあたる。これが第1のグループに特異的なものであるのかあるいは卒業後10年もたてば, その20%弱は転職する可能性があるのか, この調査だけではわからない。

経済的に自立することができたかどうかの質問に答えた男子293名の95.6%, 独身女子10名中8名(80.0%)は「自立できている」と回答した。

表5 経済的自立

男子				
	就業	無職	合計	
自立できている	277	3	280	
できていない	9	4	13	
計	286	7	293	
独身女子				
	就業	無職	合計	
自立できている	8	0	8	
できていない	1	1	2	
計	9	1	10	
既婚女子				
	就業	無職	専業主婦	合計
自立できている	11	0	3	14
できていない	4	1	3	8
計	15	1	6	22

就業していて「自立できていない」と回答した男子9名中4名は大学院生および司法試験準備中の者であり、他の5名は親の援助を受けていた。独身女子のうち就業中の1名はノイローゼのため自立できていないと回答した。既婚女子24名中専業主婦は8名(33%)であり、67%の既婚女子は共働きをしていることになる。就業していても「自立できていない」と回答したのは、低収入を意味しているのかもしれない。

年収を卒業年度別に分けたものが表6である。昭和42年から昭和44年までに卒業したいわゆる卒業10年グループの65%は年収300—500万円の階層で、1000万円を超える者が2名いた。つぎの昭和45年から昭和48年までに卒業したグループではその74.1%の者は年収200—400万円の階層であり、昭和48年から昭和51年に卒業した者では年収100—400万円の者が全体の92.8%を占めていた。

表6 収入と卒業年度

卒業年度 年収(万円)	S.42—S.44 (%)	S.45—S.48 (%)	S.49—S.51 (%)	合 計	
	100未満	0	0	3 (3.6)	3
100—200	1 (1.0)	7 (5.5)	19 (22.9)	27	(8.8)
200—300	13 (13.4)	49 (38.7)	46 (55.4)	108	(35.2)
300—400	42 (43.4)	45 (35.4)	12 (14.5)	99	(32.2)
400—500	21 (21.6)	13 (10.2)	2 (2.4)	36	(11.7)
500—600	10 (10.3)	8 (6.3)	1 (1.2)	19	(6.2)
600—1000	8 (8.2)	4 (3.1)	0	12	(3.9)
1000超	2 (2.1)	1 (0.8)	0	3	(1.0)
合 計	97 (100.0)	127 (100.0)	83 (100.0)	307	(100.0)

表7 現在の仕事の満足度(産業別分類)

	満足	普通	不満	合 計
1. 製 造 業	92	31	18	141
2. 公 務	54	5	7	66
3. 卸・小売 金融・保険 不動産業	20	7	2	29
4. サービス業	14	4	5	23
5. 建設業	13	7	0	20
6. 運輸・通信 電気・ガス 水道・熱 供給業	6	1	1	8
7. 鉱 業	3	2	1	6
8. 農 林 業	0	1	0	1
計	202	58	34	294

表8 現在の仕事の満足度(職業別分類)

	満足	普通	不満	合 計
1. 専門的・技術 的職業	102	26	20	148
2. 事務従事者	25	7	4	36
3. 管理的職業	9	2	0	11
4. 技能工・生産 工程作業者	6	3	0	9
5. 販売従事者	1	1	1	3
6. 保安・サービ スの職業	2	0	1	3
7. 農林・漁業 従事者	0	1	0	1
8. 運輸・通信 従事者	1	0	0	1
9. 大学院学生	3	0	0	3
10. 主 婦	6	2	1	9
	155	42	27	224

現在の仕事の満足度

現在の仕事の満足度について、産業別分類および職業別分類でみたものが表7、表8である。未回答、分類不能、不明の分は省略した。現在の仕事に満足していると答えた者は産業別分類の294名中202名(68.7%)、普通58名(19.7%)および不満34名(11.6%)であった。すなわち回答者の約90%は現在の仕事に満足し、約10%は不満であった。不満が最も多かったのはサービス業で、23名中5名(22%)が不満であると回答した。

仕事の満足度と年収との関係を見たのが表9である。予測される通り、年収の増加にしたがって、満足と答えた者の割合が多かった。しかし、年収300—500万円の階層にも、仕事に対して満足できないと答えた者が7%いたことは後述の後輩へのアドバイスの項にみられるように、収入より働き甲斐の有無を重視する者の意見の反映でもあろう。

表9 現在の仕事の満足度と年収

現在の 仕事の満足度	年収(万円)				合 計
	100 未満 (%)	100—300 (%)	300—500 (%)	500 超 (%)	
満 足	3 (100)	107 (80)	125 (93)	33 (97)	268
不 満	0 (100)	27 (20)	7 (7)	1 (3)	37
合 計	3 (100)	134 (100)	134 (100)	34 (100)	305

表10 現在の仕事の満足度と転職経験

現在の 仕事の満足度	転 職 群	非転職群	合 計
	(%)	(%)	(%)
満 足	33 (89.2)	237 (84.9)	270 (85.4)
不 満	2 (5.4)	35 (12.5)	37 (11.7)
不 明	2 (5.4)	7 (2.5)	9 (2.8)
	37	279	316

転職経験が現在の仕事の満足度とどのような関連があるかをみたのが表10である。転職した者は37名(11.1%)に過ぎず、非転職群と直接の比較は困難であるが、現在の仕事に不満であると答えた者の割合は非転職群の12.5%に対して転職群は5.4%であり、約1/2に減少している。転職が成功したか否かは別として、転職群は不満が少ないのか、あるいは我慢、あきらめといった心境かもしれない。

現在の仕事についての満足度は別にして、どのように考えているか自由に記述したものについて、満足群と不満群とに分けてまとめてみるとつぎのようになった。

満足群の理由

- 1) 自分の性格に合っている。
- 2) 自分の専攻学科に関連のある仕事をしているので自分の知識を仕事に生かすことができる。
- 3) 自分の仕事に誇りと生き甲斐を感じている。
- 4) 給料、社会的地位が比較的高い。

不満群の理由

- 1) 大学時代に学んだ知識を仕事の上で発揮できない
 - 2) 仕事の内容が入社時の条件と違う。
 - 3) 企業内での複雑な人間関係について行けない。
 - 4) 企業の論理、具体的には金銭に対する考えが自分の価値観と合わない。
 - 5) 給料が低い。
- 不満の具体的な例としては、給料や待遇に関する不満は少なく、むしろ働き甲斐の有無が大きな問題になっていることが特徴的であった。

職業の選択についての後輩へのアドバイス

現在の仕事の満足度に対する回答に比べて、このアドバイスについて記入した者は多く、その内容も多様であった。主なものを列挙するとつぎのようになる。

- 1) 大学生活の中で自己の性格をよく把握し、職業的適性をつかんでおく。
- 2) 入社したいと考えている企業について、事前に多くの先輩などからさまざまな情報を集める。情報は十分すぎることはない。また、会社見学は4年生にならなくても行って見る方が良い。
- 3) 自分の専門分野の勉強を十分におこない、さらに特技をもつよう、資格認定試験などを受けておくこと。
- 4) 企業イメージにとらわれないで、自分は社会に出て何をやりたいかということをしっくり考え、仕事の内容から会社をえらぶ。
- 5) 寄らば大樹の陰という考えもあるが、必ずしも大企業が働きやすいとは言えない。むしろ二流と言われている会社の方が自分の思い通りにやれることがある。
- 6) 大学で自分が専攻した学科にとらわれないで、やりたい仕事ができる会社をえらぶ。
- 7) 女性は4年大卒ならではのハンディキャップを負っており、自分の専攻学科を出た位では容易に就職できない。資格などの特技をもつことが必要である。
- 8) 女性は結婚後も勤める意志があるのなら、職場によって制限があるので、早く方針を立てる方がいい。また、常に男性以上の努力をすること。

後輩に対するアドバイスのうち、最も多かったのは情報の収集と職種によって会社を選ぶということであった。これを裏返せば一生を託そうとする会社について事前の情報収集が不足で、企業イメージで会社を選択した者が多かったのかも知れない。異口同音に「仕事は給料その他の待遇面ではなく、やり甲斐のある仕事であるかどうかを判断の目安にするように」と述べていた。しかしながら入社前にこれらのことを判断することは無理ではないかという意見もあり、結局は「一度決めたら迷わずに賭けてみる」ことであり「答が出るのは人生の最後の時」になるのかもしれない。

女子学生の就職難が反映されたのは、アドバイス7)、8)であり、現在の女子学生の厳しい現実を物語っている。

家庭生活

昭和54年6月現在で結婚していた者は調査対象329名の75.1%にあたる247名であった。男女別にみると表11に示されるように男子の75.6%、女子の70.6%は結婚していた。結婚について卒業年度別にみたものが表12に示されている。卒業後10年以上の群の94.1%が結婚していた。卒業後6～9年の群は81.2%、卒業後3～5年の群は45.7%が結婚していた。

表11 結婚

	既 婚 (%)	未 婚 (%)	計 (%)
男 子	223 (75.6)	72 (24.4)	295 (100)
女 子	24 (70.6)	10 (29.4)	34 (100)
計	247 (75.1)	82 (24.9)	329

	既 婚	未 婚	計
女 子	24	10	34
就 業	16	9	25
無 職	0	1	1
専 業 主 婦	8	—	8

表12 婚姻率

卒業年度	既 婚 (%)	未 婚 (%)	計
S.42—S.44	96(94.1)	6(5.9)	102
S.45—S.48	108(81.2)	25(18.8)	133
S.49—S.51	43(45.7)	51(54.3)	94
計	247(75.1)	82(24.8)	329

女子について結婚と就業の状態をみると、結婚した24名中16名(67%)は就業していた。専業主婦は8名(33%)であり、女子の大部分は夫婦共働きが多いことが示されている。未婚女子10名のうち9名は就業し、1名は無職であった。

離婚した者は卒業後10年以上の群に1名回答があっただけである。調査対象が30才台であり、結婚期間も短いためであろう。結婚した247名のうち198名(80.2%)に子供が生まれていた。

現在の健康状態

現在健康であると答えた者は326名中288名(88.3%)であった(表13)。不健康であると答えた38名の内訳をみると、身体的なもの(8)と精神的なもの(1)が半々である。自覚的な健康度について、学生時代と現在を比較したものが表14に示されている。学生時代も現在も健康であると答えた者は249名(76.4%)である。不健康の内訳のうち学生時代も現在も不健康である者は身体的、精神的それぞれ1例である。学生時代に身体的不健康であった14名中12名(86%)、精神的に不健康で

表13 現在の健康状態

	健康 (%)	不健康				合計 (%)
		身体的 (%)	精神的 (%)	身体+精神 (%)	小計 (%)	
男性	257	15	14	8	37	294
女性	31	0	1	0	1	32
計	288 (88.3)	15 (4.6)	15 (4.6)	8 (2.5)	38 (11.7)	326 (100.0)

表14 学生時代と現在の健康度

学生時代	現在	健康状態				合計
		健康	不健康			
		身体的	精神的	身体+精神		
健康	健康	249	13	12	7	281
不健康	身体的	12	1	1	0	14
	精神的	22	1	1	1	25
	身体+精神	5	0	1	0	6
合計		288	15	15	8	326

あった25名中22名(88%)および身体・精神的に不健康であった6名中5名(83%)は現在健康であると答えた。逆に現在身体的に不健康であると答えた15名中13名は学生時代に健康であり、現在精神的に不健康と答えた15名中12名は学生時代に健康であった。すなわち現在の健康度は、学生時代の健康度と関連がないように思われる。学生時代の健康度で、不健康とした約70%は「精神的に不健康」と答えたものであるが、この時期の不健康さは、重大な精神疾患を除けば青年期に特有の一過性の悩みであり、その悩みが卒業後まで持ちこされることは非常に少ないことを示している。

医療機関への受診件数について、学生時代と卒業後と比較したものが表15に示されている。通院・入院件数ともに、卒業後は学生時代の2倍に増加している。

表15 医療機関への受診件数の比較

	通院		入院	
	学生時代	卒業後	学生時代	卒業後
精神神経疾患	1	2	1	2
耳鼻咽喉科疾患	1	4	3	6
呼吸器結核疾患	1	1	1	4
内科疾患	4	6	2	5
外科疾患	3	6	11	17
その他	0	2	0	1
合計	10	21	18	35

表16 既往の疾患と就業状態

	就業	無職	主婦	計
身体疾患	82	0	1	83
精神疾患	5	1	0	6
疾患なし	225	9	6	249
合計	312	10	7	329

卒業後に通院治療を受けた内科疾患6の内訳は、胃・十二指腸潰瘍4、胃炎1、腎疾患1であった。入院治療を受けた内科疾患の内訳は胃・十二指腸潰瘍2、ネフローゼ1、その他3であった。

外科疾患で入院治療を受けた17名の内訳は虫垂炎5、骨折4、椎間板ヘルニア2、腎・尿路結石2、その他4であった。卒業後に胃・十二指腸潰瘍に罹患した者が多いのは、社会生活上のストレスが多いことを示唆している。外科疾患の中で骨折が卒業後に多いのは、学生時代のように持続的なトレーニングをしないため、急激な運動負荷によって、骨折がおこったのかも知れない。

健康状態と現在の就業状態との関連をみたものが表16に示されている。既往の疾患の就業状態に及ぼす影響はほとんどみられない。

おわりに

大学卒業後3～12年を経過した卒業生の現在の社会生活とその健康状態について調べた。これはすでに報告した大学生生活の満足度について回答した群の背景を示している。すなわち、大学生生活は有意義であったと評価した群の社会的背景が示されている。

アンケート調査の弱点は、非回答群の意見をどのように評価するかということである。回答しない人々の考えはつぎの何れかに分けられるだろう。1. 質問に無関心。2. 関心はあってもめんどくさい。3. プライバシーの面からの拒否。4. 質問内容に対する拒否反応。4. の拒否反応について考えてみると、返信用の封筒に明らかに調査そのものに対する拒否の意志を表明した返信はなかった点からみるとあまりその数は多くないのではないかと思われる。一般的に言えば1. の無関心層が最も多いのではないだろうか。この層の人々の中にも、大学生生活を満足と評価する人も、不満と評価する人もいるだろう。しかしその比率が極端に偏っているとは考えにくい。

回答者の社会的背景と健康状態の特徴はつぎの通りである。

1. アンケート回答者326名の産業別分類で最も多かったのは製造業141名(43.3%)で、つぎに公務員67名(20.6%)であった。職業別分類では、専門的・技術的職業が148名(45.4%)であり、つぎに事務従事者の36名(11.0%)であった。

2. 現在の仕事の満足度の調査では、不満が最も多かったのはサービス業であり、つぎに鉱業、製造業の順であった。職業別分類で不満の多い順に挙げると1位専門的・技術的職業、2位事務従事者の順になった。現在の仕事に対する満足度は年収と比例関係にあったが、一部には年収がかなり高くても不満を訴える者がいた。これは仕事のやり甲斐と関係があるように思われる。

3. 職業の選択について、後輩に対するアドバイスのうち最も多かったのは、「自己の適性を考え、自分がやりたいと思う職種によって会社をえらぶ。」ということであった。会社イメージによる安易な選択は、後で不満の種になることを示唆している。

4. 結婚した者は男子の75.6%、女子の70.6%であり、女子の結婚がやや少ない傾向にあった。女子の既婚者24名中16名(67%)は就業していた。専業主婦は8名に過ぎない。

5. 回答者の88.3%は現在健康であると答えた。現在の健康状態は学生時代の健康状態と関連がなかった。

医療機関への受診率は学生時代に比べて2倍に増加していた。内科的疾患では胃・十二指腸潰瘍が多く、外科的疾患では虫垂炎、骨折などが多かった。

参考文献

山田裕章, 冷川昭子, 峰松修: 学生生活の研究,

1. 卒業後から見た大学生生活の満足度。
健康科学. 2: 155-161, 1980.